

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表： 令和4 年 5 月 1 日

事業所名 放課後等デイサービスアロハランド

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8			活動がしやすい様に区切りを作っている	
	2	職員の配置数は適切である	8			活動や行事予定に合わせてそれ以上の職員を配置しています	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8			再度危ない箇所の確認をし必要な所は設置している	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7	1		毎日のミーティングの他に職員会議、ケース会議を行い業務改善を図っている	会議などでPDCAサイクルでの考えを職員と話し合いを行っていましたが、再度PDCAシートも作成し業務改善を図れる様にしていきたい
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8			自己評価の結果を職員全員で共有し改善点を話しあい安心して過ごせる様努めている	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8			HPで公表しています	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	1		連携している有識者からの評価を基に業務改善を図っています	外部評価を引き続き行い、業務改善につなげていきたい
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8			各種研修会には積極的に参加しており職員のスキルアップに努めています	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8			6カ月に1回はモニタリングを行い目標の達成度や課題を保護者様と共有して作成しています	
適切な支援の提供	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8			全職員で共有しているアセスメントツールを使い、児童の特性や状況を判断して作成している	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	1		職員で活動目標を決め、それに沿ったプログラムにしている	活動目標に沿ったプログラムを職員全員で考えていく
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8			児童の状況を考慮してプログラムを立てています	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	1		日々のミーティングでその日の状況に合わせて支援にあたっている	状況に合わせているが、職員により異なる場合もあるので、個々に合わせた課題など細かく見れる様に支援する
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8			個々の児童の特性を十分理解し、個別と集団活動の必要性を考慮したうえで作成	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8			毎日朝ミーティングを行い支援内容や役割分担を決めている	

関係機関や保護者との連携	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8			日誌を活用し気づいた点などを共有している	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8			全職員が日誌を記入できる様に指導も行い正しく書ける様徹底しています	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8			6カ月に1回モニタリングを行っています	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	7	1		ガイドラインの読み合わせを行い、支援の基本活動を意識して取り組んでいます	新しい職員も含め再度ガイドラインの読み合わせを行い、支援の基本活動を意識して取り組みます。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8			児童発達支援管理責任者、施設管理者で出席している	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	7	1		必要な情報の取得に努め、トラブルが起きない様に連絡調整している	学校との情報共有として、連絡ノートの活用や電話連絡を行いトラブルがおきない様行っていく
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている					
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8			入所前には、相談事業所、こども園、保育園と引継ぎ会など行い情報共有を行っている	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している					
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8			積極的に研修を受けられる様にしている	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7	1		休校日などに障がいのない子どもと活動の機会を持てる様にしている	放課後児童クラブ、児童館との交流はなかなか実施できなかったので機会をみて行っていきたい
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	8			お知らせがあれば積極的に参加する様にしている	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8			送迎時などに保護者様との情報共有を図っています	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	6	2		職員はペアレントトレーニングの研修を受講しています	新しい職員など研修を受講し、保護者様に対して支援を行える様にする

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8			契約時に説明しています	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8			悩みや困りごとが相談された場合は、寄り添いながら傾聴や助言等を行っています	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	2		名称は異なりますが親子交流会を開催しています	コロナ禍でなかなか開催が難しかったですが、保護者会なども開催できる様にしたい
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8			マニュアルを整備して対応に備えており、迅速に事の経緯を説明し、保護者の不満や不安の解消に努めます	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8			毎月のおよよりでお知らせしています	
	35	個人情報に十分注意している	8			書類関係は鍵のかかるキャビネットで厳重に管理しています。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8			個々に合わせた伝達方法で情報共有に努めています	
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	3		行事など地域住民への招待も行っています	今後も地域に根ざした事業運営が出来る様に取り組む
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	2		マニュアルを策定し、確認してもらっている	各マニュアルはわかりやすい玄関などに置き、誰でも手に取れる様行う
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8			年2回の訓練を行っています	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8			研修の参加、ミーティング時に虐待防止の意識の向上に努めています	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	1		やむを得ず身体拘束をおこなった場合には、しっかりと記録を取り、保護者様へ説明を致します	計画書にも記載をし、やむを得ず行った場合はしっかりと説明出来る様に行う
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	1		アレルギーや服薬のあるお子様に関しては、医師の指示書を念頭に置き慎重に対応しています	アレルギーや服薬のあるお子様に関して、保護者様からの聞き取りもしっかり行い、医師の指示書に基づく対応が出来る様にする
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8			全職員が積極的に取り組み、事例検討などを行っています	

児童発達支援における自己評価結果(公

1公表： 令和4 年 5 月 1 日

事業所名 放課後等デイサービスアロハラン

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8		活動がしやすい様に区切りを作っている	
	2	職員の配置数は適切である	8		活動や行事予定に合わせてそれ以上の職員を配置しています	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8		再度危ない箇所の確認をし必要な所は設置している	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8		心地よく過ごせる環境整備を行っている	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7	1	毎日のミーティングの他に職員会議、ケース会議を行い業務改善を図っている	会議などでPDCAサイクルでの考えを職員と話し合いを行っていましたが、再度PDCAシートも作成し業務改善を図れる様にしていきたい
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8		自己評価の結果を職員全員で共有し改善点を話しあい安心して過ごせる様努めている	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8		HPで公表しています	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	1	連携している有識者からの評価を基に業務改善を図っています	外部評価を引き続き行い、業務改善につなげていきたい
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		各種研修会には積極的に参加しており職員のスキルアップに努めています	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8		6カ月に1回はモニタリングを行い目標の達成度や課題を保護者様と共有して作成しています	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8		全職員で共有しているアセスメントツールを使い、児童の特性や状況を判断して作成している	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8		計画書には具体的な支援内容で設定している	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8		計画書に沿った支援を行っている	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	2	職員で活動目標を決め、それに沿ったプログラムにしている	活動目標に沿ったプログラムを職員全員で考えていく
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	1	児童の状況を考慮してプログラムを立てています	活動プログラムが固定化しない様に週案も立てて考える
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	8		個々の児童の特性を十分理解し、個別と集団活動の必要性を考慮したうえで作成	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8		毎日朝ミーティングを行い支援内容や役割分担を決めている	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8		日誌を活用し気づいた点などを共有している	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		全職員が日誌を記入できる様に指導も行い正しく書ける様徹底しています	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8		6カ月に1回モニタリングを行っています	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8		児童発達支援管理責任者、施設管理者で出席している	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8		関係機関と連携した支援を行っている	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている			8 保育所に通っていない為情報共有は出来ない	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている				
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8		助言、研修を行い職員全員で学んでいる	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	8		休校日などに障がいのない子どもと活動の機会を持てる様にしている	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	8		お知らせがあれば積極的に参加する様にしている	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8		送迎時などに保護者様との情報共有を図っています	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6	2	職員はペアレントトレーニングの研修を受講しています	保護者に対しての支援がなかなか出来ていなかったため研修内容など家族支援プログラムの支援を行える様にする
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8		契約時に説明しています	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8		支援計画の説明を行い保護者から支援計画書の同意を得ている	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8		悩みや困りごとが相談された場合は、寄り添いながら傾聴や助言等を行っています	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8		名称は異なりますが親子交流会を開催しています	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8		マニュアルを整備して対応に備えており、迅速に事の経緯を説明し、保護者の不満や不安の解消に努めます	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8		毎月のおやよりでお知らせしています	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	8		書類関係は鍵のかかるキャビネットで厳重に管理しています。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8		個々に合わせた伝達方法で情報共有に努めています	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7	1	行事など地域住民への招待も行っています	今後も地域に根ざした事業運営が出来る様に取り組む
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	2	マニュアルを策定し、確認してもらっている	各マニュアルはわかりやすい玄関などに置き、誰でも手に取れる様行う
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8		年2回の訓練を行っています	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8		事前に必ず確認している	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8		アレルギーや服薬のあるお子様に関しては、医師の指示書を念頭に置き慎重に対応しています	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8		全職員が積極的に取り組み、事例検討などを行っています	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8		研修の参加、ミーティング時に虐待防止の意識の向上に努めています	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8		やむを得ず身体拘束をおこなった場合には、しっかりと記録を取り、保護者様へ説明を致します	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。